

2024年3月 エチオピア・アディスアベバにて引渡し式

秋子孝男 2024年3月20日記

2023年11月、子ども用車椅子90台を載せたコンテナは船を乗り替えながら隣国のジブチ港経由でエチオピア・アディスアベバの内陸港通関施設に向かいました。一方、同年10月のハマス武装勢力の奇襲を発端とするイスラエルによるガザ地区への激しい攻撃は、パレスチナ連帯を掲げる勢力のアデン湾、紅海周辺などスエズ運河航路での民間商船への攻撃、拿捕、人質拘束など海上テロ、海賊行為を誘発し、国際海上輸送の混乱は現時点でもまだ継続しています。このような状況下でしたが、幸い私たちのコンテナはインド洋を再往復するなど、2023年末着の予定を2024年2月に遅延しながら、無事にアディスアベバに到着することができました。

以下、現地カウンターパート Cheshire Foundation-Action for Inclusion (以下 CF-AI)との協賛で3月5日アディスアベバ市政府主催の引渡し式に参加ほか現地活動を記録の意味含め、お伝えします。

約50名の障害児がアディスアベバ市 女性・子ども・社会問題行政局庁舎会場に招かれ、保護者関係者総勢100名弱の規模となっていました。当会活動に長年にわたり支援協力いただき、エチオピア・プロジェクトにも参加された東京昭島中央ロータリークラブから3名も出席しました。

主な出席来賓者メッセージ、Mr. Alemayehu エチオピア連邦政府 女性・社会問題省障害者局代表、Mr. Atilabachew アディスアベバ市 女性・子ども・社会問題行政局代表、Mr. Geletaw Mulu: アディスアベバ市行政局 障害者協会会長、などに続き CF-AI Mr.Kedir Mohamed 理事長の挨拶、当会からは日本での活動紹介、車椅子使用時のヒントにつき紹介を行いました。式の後には車椅子の配布も始まり、初めて車いすを使う子どもが、器用に乗りこなすシーンもあり、会場には満面の笑みも広がっていました。(国営TVニュースビデオ参照ください)



左上: Mr.K.Mohamed CF-AI 理事長

上中: 政府、市政府来賓と共に恒例のケーキカット

右上、左: 会場の様子

今回ヒヤリングや家庭訪問を通して改めて理解できたのは、CF-AI アディアスアベバは以前に増して市政府との協力関係を強くし、障害児との日常の支援活動は女性・子ども・社会問題行政局のスタッフが前面で行っていることでした。CF-AI はその国際 NGO としての長年の活動の実績から海外の福祉団体からの資金、技能支援の窓口の役割を果たしていて、エチオピアではまだまだ不足している各種療法士育成、リハビリテーション施設の拡充を図っており、トルコ政府資金・技能援助でアディアスアベバ本部敷地内に一年以内にこれら新施設の開所を予定していると喜んでいました。

私たちの各国で活動するカウンターパートはその国での特色を踏まえながら、多様な内容、活動形態をとっていますが、エチオピア連邦民主共和国という各州の自立性が強い環境の下、CF-AI は活動している各州、各地方政府の立ち位置に合わせながら障害児支援、共生社会、貧困問題に対し、着実に取り組んでいくことに気をくだしていると話をしてくれました。



- ・家庭訪問時に見受ける狭い出入り口と外路への段差。外空間のトイレは数世帯で共用
- ・車椅子使用者の記録。市スタッフが作成、CF-AI もコピーを保管



今回も連邦政府レベルでの社会福祉行政諮問団体である Mary Joy 本部を訪問することができました。SDGs 17 テーマにつきエチオピア連邦政府福祉政策について、目標策定に参画したとのこと、ひとつ上の階層レベルでの活動でした。JICA 派遣の IT 技術支援者が着任直後と一緒に団体幹部からのテーマ紹介プレゼンを興味深げに聞き入っていました。

完全に民間篤志家グループの資金で運営されている『子どもホーム』の参観の機会を得ました。身寄りのない子ども、障害児約 30 名がスタッフの保護のもと同居生活をしています。清潔な遊び、生活スペース、給食が用意されており、この施設の出身者で大学まで進学し首席卒業を果た

した方の写真が誇らしげに掲示されていました。まだまだエチオピアのスラム街での家庭訪問後の訪問機会で、ホッとできた時でした。



(遊具場、ボールコートもある広い施設、障害児寝起きする部屋では元看護婦さんがマッサージを施していた)

《街の様子》

前回訪問は Covid19 前の 2018 年。旧王宮をのぞけば目立つ建造物は中国無償供与のアフリカ連合本部の高層ビル(90m)、巨大会議場施設などだったが、今回は金融センター街と称し、異型の凝ったデザインビルが多数出現し、その中でも国営商業銀行本店ビルは 200m 越えの東アフリカ一番の雄姿を見せていた。中心部再開発では大型記念堂、大規模公園の整備などが進み、不足する電力供給にも拘わらず夜間のライトアップなど以前の中国地方都市風の変貌をみせていた。都心部再開発はスラム街の強制撤去をとめない、転居者のフォローは市政府でもやり切れておらず、貧困層の支援家族の離散、行方不明など問題があると市当局スタッフの話であった。

2018 年当時 1USD=30 エチオピアブルが概算換算レートであったが、今回はホテル、銀行での準公定レートでは 56 ブル、市中間レートでは 100 ブル越えという通貨安に襲われていた。昨年来国債の配当払いデフォルト、中国政府との借款返済、金利繰り延べ合意、財政巨額赤字、外貨準備の枯渇など海外資本長期借款での開発事業行き詰まりは顕著だった。街の人たちにそれなりの明るさ、繁華街、公園などでの賑わいもあるが、国民平均死亡年齢は 55 歳前後説を現地で聞かされたが、最新の国際機関統計では 60 歳台半ばまで伸びていると現状把握も一苦労のようだが、食糧不足による疾病、水に起因する衛生問題、乳児、児童の高い死亡率など貧困問題は間違いなくそこにあった。



(左端：200m 越えの高層ビル壁面のウネリはデザイン、スラムとビル街が混在するアディスアベバの街並み)

(右端：中国援助で 2019 年オープンの新設ターミナルで多く見かけたイスラム圏アラブ諸国への出稼ぎメイドさんの団体。

社名マーク入りスカーフ、制服着用が特徴)

以上